

品質保証研究会 平成17年度活動報告

1. 活動状況

1. 1 平成17年度の活動は、第15回通常総会で承認された活動計画に基づき、展開し、初期の成果を収めることができた。

番号	項目	内 容		回数
1	通常総会	第15回通常総会の開催		1回
2	品質保証研究会全体活動	会員相互間の啓発	講演会	2回
			見学会	1回
3	QASGニュースの発行	会員の活動状況や、品質保証に関する情報交換	第52号～第55号	4回
4	定例研究会活動	グループ毎にテーマを定めての品質保証に関する調査・研究活動と会員への成果提供	第1グループ	7回
			第2グループ	10回

1. 2 平成17年度品質保証研究会の活動実績を表1に示す。

2. 活動要約

平成17年度の活動要約を表2に示す。

表1 品質保証研究会 平成17年度活動実績

項目		2006年(平成18年)															
		5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月		
全体活動	総会	計画	第15回 5/31(火) ▼日本工業 倶楽部												第16回 5/31(水) ▼		
		実績															
	講演会	計画					第27回 ▼ 9/27	第28回 ▼ 11/7									
		実績															
第1グループ	見学会	計画							第28回 ▼ 1/18								
		実績															
	QASG 二ユース	計画															
		実績															
第2グループ	講演会	計画															
		実績															
	H. P	計画															
		実績															
幹事会	第1グループ	計画															
		実績															
	第2グループ	計画															
		実績															
メンテナンス	H. P	計画															
		実績															
	幹事会	計画															
		実績															

表2 平成17年度 品質保証研究会 活動要約

番号	項目	日時・場所	参加人員	内容
1	第15回 通常総会	平成17年度5月31日(木) 日本工業倶楽部 3階大会堂	79名 (出席40名 委任状39名)	(1)平成16年度活動報告・会計報告の承認 (2)平成17年度活動計画・予算案の承認 (3)役員人事の承認 (4)特別講演「原子力安全学の再構築と 科学技術者の役割」 東北大学 客員教授 北村 正晴氏
2	講演会 第27回 講演会	平成17年9月27日(火) 日本原子力産業会議 第1,2会議室	38名	「組織事故の分析と低減対策について」 日本ヒューマンファクター研究所 黒田 勲氏
	第28回 講演会	平成17年11月7日(月) 日本原子力産業会議 第1,2会議室	25名	「リスク・安全管理におけるヒューマンエラーの役割」 リンシェーピング大学 エリック ホルナゲル氏
3	会見学 第28回 見学会	平成18年1月18日(水)	10名	独立行政法人 物質・材料研究機構
4	定例 研究会 第1 グループ (リーダー: 渡辺邦道会員)	(1)研究テーマ QMSの形骸化を齎すものに関する調査研究 (2)活動概要 QMSの形骸化を齎すものは何かについて、内部監査、品質目標とマネジメントレビュー、品質保証教育、調達管理、全体の観点から、5グループのワーキングに分かれて。アンケートなどを通して要因について検討した。		① 第一回研究会 平成17年 9月13日 ② 第二回研究会 平成18年 2月 7日 ③ 加藤重信さんの講演会 平成18年 4月14日 (QMSにおけるトップマネジメントの役割と内部監査・・・QMSの形骸化を齎すものとの関係について) 82名参加 研究幹事会を計4回開催 平成17年 7月12日 平成17年 8月30日 平成17年10月18日 平成17年12月 6日
	第2 グループ (リーダー: 清川和宏会員)	(1)研究テーマ エラーマネジメントに関する調査研究 (2)活動概要 規則違反を含む社内インシデント事例、組織事故・不祥事の事例を分析し、これらを誘発する共通要因について検討し、実務者が留意すべき事項を提言した。また組織事故の発生モデル、関連分野の調査等を実施した。		① 第一回研究会 平成17年6月21日 ② 黒田顧問との意見交換会平成17年9月27日 研究幹事会を計7回開催 研究会有志により下記の図書を翻訳出版した。 ホルナゲル著、小松原明哲監訳「ヒューマンファクターと事故防止」 海文堂(平成18年3月)
5	QASG ニュース の発行	(1)第52号 平成17年 8月 30日 (2)第53号 平成17年 12月 16日 (3)第54号 平成18年 3月 30日 (4)第55号 平成18年 5月 31日		(1)第15回通常総会、特別講演会報告、平成17年度第1グループ、第2グループ活動計画など (2)第27回講演会報告、IAEA情報、第2グループ中間報告など (3)第28回講演会報告、第28回見学会報告、第1グループ中間報告など
6	幹事会	上記諸活動の計画・推進又は支援のため、必要な都度、幹事会を開催した。 (幹事会:第93回～第101回計9回開催)。		

品質保証研究会・平成17年度収支計算書
(平成17年4月1日～平成18年3月31日)

貸方科目	計	予算額
会費収入	990,000	1,150,000
講演会参加費収入	287,000	200,000
見学会参加費収入	49,000	100,000
その他収入	0	
利息収入	3	
収入計	1,326,003	1,450,000

単位:(円)

支出の部

借方科目	計
会議費	358,580
印刷費	330,965
雑費	230,000
旅費交通費	31,760
通信運搬費	163,620
消耗品費	0
雑費	8,865
支出計	1,123,790
収支差額	202,213
合計	1,326,003

事業項目別支出内訳	支出額	予算額
総会関係	439,745	350,000
定例研究会	202,440	600,000
講演会	268,260	200,000
見学会	20,355	100,000
ホームページ	192,990	200,000
合計	1,123,790	1,450,000

品質保証研究会・貸借対照表
(平成18年3月31日現在)

単位:(円)

資産の部		負債の部	
勘定科目	金額	勘定科目	金額
流動資産		流動負債	
現金	23,769	未払金	0
銀行口座	844,787		
郵便振替口座	43,400	流動負債合計	0
流動資産合計	911,956	負債合計	0
固定資産	0		
固定資産合計	0		
資産合計	911,956		
合計	911,956		

正味財産の部		正味財産の部	
勘定科目	金額	勘定科目	金額
繰越金		繰越金	
前期繰越金	709,743		
当期収支差額	202,213		
繰越金合計	911,956		
正味財産合計	911,956		
合計	911,956		

監事 渡邊邦道

監事 今村敬

品質保証研究会

平成18年度活動計画

1. 活動方針

活動成果のなお一層の充実とその活用を図るため、以下の活動を実施する。

- ・全会員対象の講演会、見学会を計画し、会員相互の啓発を図る。
- ・定例研究会活動として、第1、第2の各グループのテーマに基づく輪読、講義、講読、見学等の活動を一層活発化するとともに、その活動成果を取りまとめて、会員の活用に供するように努める。
- ・会員間の情報交換、コミュニケーションの場の提供を図るため、QASGニュースを発行するとともに、ホームページの有効活用を図る。

以上の方針に基づき、平成18年度の具体的な推進計画を以下に示すとともに全体の活動計画(補足)を表1に示す。

2. 活動計画内容

平成18年度活動計画の主要項目を以下に示す。

2.1 総会

- ・第16回通常総会
- ・総会終了後、特別講演会を開催する。
(講師) 原 欣資氏 三菱重工業(株) 名古屋航空宇宙システム製作所 品質保証部長
(演題) 「失敗の経験と成功への道の中でQAの果たした役割について」

2.2 講演会の開催

上期(平成18年9月)、下期(平成19年1月)各1回の講演会を予定する。

2.3 見学会の開催

上期(平成18年10月)、下期(平成19年2月)各1回の見学会を予定する。

2.4「QASGニュース」の発行

年度内4回のQASGニュース(平成18年8、11月、平成19年2、5月)発行を予定する。

2.5 定例研究会活動

(1)第1グループ(リーダー:渡邊邦道会員)

研究テーマ : QMSの形骸化を齎すものとその復元力とは

研究の進め方: QMSの形骸化を齎すものについて、昨年度のワーキングを継続し、分析を進めると共に、形骸化に対する復元力は何かについて研究を進めてゆく。

(2)第2グループ(リーダー:清川和宏会員)

研究テーマ: エラーマネジメントに関する調査研究

研究の進め方: 組織事故事例の分析を継続して実施し、組織事故防止のための実務的な知見を整理する。

- ① 組織事故の事例分析の継続的な実施
- ② 組織事故発生モデルの改良
- ③ 組織事故防止のための資料の整備
- ④ 関連分野の文献調査 他

表1 品質保証研究会 H18年度活動計画(補足)

項目	2006年(平成18年)					2007年(平成19年)								
	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
総会	第16回 5/31 ▽												第17回 ▽	
全体活動	講演会			○ (案内発送)	第29回 ▽			○ (案内発送)	第30回 ▽					
	見学会				○ (案内発送)	第29回 ▽		○ (案内発送)	第30回 ▽					
	QASG ニュース				第56号 ▽	○ (依頼)	○ (依頼)	○ (依頼)	○ (依頼)	○ (依頼)	○ (依頼)	○ (依頼)	○ (依頼)	第59号 ▽ (発行)
第1グループ		▽ (研究会)		▽ (研究会)		▽ (研究会)		▽ (研究会)		▽ (研究会)				
第2グループ		▽ (研究会)		▽ (研究会)		▽ (研究会)		▽ (研究会)		▽ (研究会)				
幹事会		第102回 ▽		第103回 ▽		第104回 ▽		第105回 ▽			第106回 ▽	第107回 ▽	第108回 ▽	

第2号議案－2

品質保証研究会・平成18年度収支予算案

(平成18年4月1日～平成19年3月31日)

単位 (円)

収入の部	金額		前年度予算額
会費収入	1,150,000		1,150,000
講演会参加費収入	200,000	2回分	200,000 2回分
見学会参加費収入	80,000	2回分	100,000 3回分
収入計	1,430,000		1,450,000
前期繰越金	911,956		
合計	2,341,956		

支出の部	金額		前年度予算額
総会関係	350,000		350,000
定例研究会	600,000		600,000
講演会	200,000	2回分	200,000 2回分
見学会	80,000	2回分	100,000 3回分
ホームページ維持費	200,000		200,000
支出計	1,430,000		1,450,000
予備費	911,956		
合計	2,341,956		

品質保証研究会 会則の改定について

当会会則について、下記の改定を提案致します。

1. 本会が所在し、事務局業務の協力を得ている社団法人日本原子力産業会議が本年4月1日より社団法人日本原子力産業協会に改組されたことにともない、会則中の名称を修正する。
2. 本会活動の更なる活性化を目的として、役員及び顧問の任期を1年から2年、2年から3年にそれぞれ延長する。

[改定内容]

1. (所在地) 第2条を一部改定し、以下とする。
『本会は、当分の間、所在地を社団法人日本原子力産業協会（事務局）気付とする。』
2. (役員及び顧問の任期) 第13条を一部改定し、以下とする。
『 役員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。
(2項及び3項省略)
4 顧問の任期は3年とする。』
2. (事務局) 第19条を一部改定し、以下とする。
『本会の事務局業務については、当分の間、社団法人日本原子力産業協会・事務局の協力を得るものとする。』
3. 付則
『本会則は、改定した日から施行し、平成18年4月1日から適用する。』

第4号議案

品質保証研究会 役員選任

〈退任〉

監 事 渡 邊 邦 道 0084 ワカハ[®] ケニチ (東京電力株式会社)

〈新任〉

監 事 奈 良 順 一 0119 ナラ ジョシイ (東京電力株式会社)

※ ただし、任期は、第17回通常総会までとする。

以 上